

シリーズ 『経営者』インタビュー

日本ゲージ株式会社
茨城県茨城郡茨城町長岡3652



代表取締役
山野内五郎氏

茨城県の県庁所在地水戸市に隣接する茨城町にある日本ゲージ株式会社。創業は昭和8年、法人化は昭和13年という長い歴史を持つ。戦時中は軍需工場として機能していたが、昭和26年にエレベータ部品の製造を開始。建築需要が引き続き好調なこともあって現在では総売上げの8割を占めている。昭和50年には精密シートメタル加工の分野に進出し、プリンタ部品の製造を開始。現在、エレベータの出入口部品、ラインプリンタのフレームおよびカバー、端末機の筐体を製造している。創立50周年を迎えた今年は、新工場も竣工。今回は昭和53年から同社社長として積極的な経営を展開するとともに、茨城県精密板金工業会の会長という要職を務めている山野内五郎氏にインタビューした。

常に現場で考える実戦経営 社員のプライドを満足させる 環境づくりに力点

新工場内。左手がインテリジェント自動倉庫・MARS。NCT・COMAとマニピュレータ（NC-MP等）による加工システムが、工場奥方向に4セット設置され、MARSと連動し、材料の搬入、仕掛品の保管、搬出までが、すべて自動化されている。また、NCTは、すべて防音室に格納されている



—— 貴社が精密シートメタル加工を始めたのはいつ頃のことでしょうか。

山野内 昭和48年のオイルショックで、当時80名いた従業員を35名まで削減しました。昭和26年頃からエレベータの出入口の部品加工をメインに経営していたのですが、何とかしなくちゃいかん、ということで日立工機に高校の先輩がいたので、そこに行ってみたくて。日立工機は電動工具しかやってないと思ってい

たら、プリンタの製造もやっていたんですね。それで、そのシャシーン関係をやってみろということになって、金額で20万円くらいの仕事をもらってきた。40cm角くらいにボール盤で穴を50～60あけたのですが、全部不良で6回も返品されたのを覚えています。

とにかく、乗りかかった船だから、とことんやろう。それにはパンチングマシンを導入しなけれいかん—というのがアマダマシンとの出会いですね。ちょう

ど日立工機のプリンタが好調の時で、集中的に設備投資をしました。シートメタル加工は手仕上げの部分がありますから、やりようによっては利益率がいいと思ったんです。最初のNCタレットパンチプレス（NCT*）はLYRA（リラ）でしたが、それがCOMA（コマ）につながっているんですね。

新しい機械は、従業員の心の張り

—— オイルショックがきっかけでアマ

ラインプリンタの筐体。日本ゲージの高度な加工技術が伝わってくる



ダのマシンに出会ったということですが、その使いこなしについては…。

山野内 高精度なNCT加工を実践するために、一台を長く使わないで5～6年で新しい機械にリプレースするようにしています。また、NC加工テープがどの機械でも使えるように、どのNCTも66ステーションに統一しています。従業員にも細かいことは言わないでドンドン使え、使って馴れろと言っている。それに常に新しい機械のほうが従業員の心の張りになるというか、絶えず新鮮な気持ちで働けるし、能率も上がる。励みにもなりますね。

それにひとつでいいから親会社よりもいい機械設備を持ちたい—という考えもあります。自動倉庫、マニピュレータ、NCTのラインは親会社に負けないものと自負しています。

—— 毎年のように新しい機械設備を導入していくというのは、工場レイアウトの面で大変だと思いますが…。

山野内 私は現場が好きだから、常にそこで考えるようにしています。だからレイアウトも自分で考える。照明の問題もあるし、防音の問題もある。特に夜間の稼働は音が遠くまで飛んでいきます。近隣から苦情が出てからでは遅いので、先

に対策を構じなくてはならない。それにFA化、CIMという時代の流れにも対応していかなければならない。人を増やさずに仕事量をこなしていくには、どうしてもそうなります。だからレイアウトは永遠の問題でもありますね。

また、レイアウトとは違いますが、以前、工場の床面をきれいに塗り直したんです。そうすると不良率が半減したんですね。絶えず現場に身を置いていると、仕事の流れや職場環境の問題も肌身で感じられます。今、アメニティ—ということが盛んに言われてますし、職場が明るくきれいで、機械設備も常に更新していけば、従業員のプライドも満足させることができるわけです。創立50周年を迎える今年に竣工した新工場も、現場はもち

シートメタル加工・関連設備

自動プログラミングシステム・AMACOM AP-40、AMACOM-2200、NCT・COMA-557（マニピュレータ・NC-MP等装備）×4台、インテリジェント自動倉庫・MARS、レーザー加工機・LC-657II、シャーリングマシン・M-1245、M-2545、プレスブレーキ・RG-100（NC9-EX装備）×6台、RG-80（NC9-EX装備）、RG-25、NCタッピングマシン・CTS-1200×2台、CTS-54、コーナーシャー・CSW-220のほか、プレス機械、自動溶接機など多数。

*「NCT」は、株式会社アマダの登録商標です。

シリーズ 『経営者』インタビュー

ろん、事務部門や食堂などアメニティを
考えて設計しています。

競争心や向上心が 出てくる状態が理想

—— 現場が好き、現場からものを考え
るというお話でしたが、従業員教育、人
材確保という点ではどうなさっています
か。

山野内 まず人を信用すること。機械は
馴れていなくてもドンドン使え、好きな
ように使えと言っている。修得するのが
遅くても、ある程度の期間は本人にまか
せて、自分から行動できるように、命令
される前にやるよう指導しています。な
んといっても現場で教えるのが一番です。
それに、先輩の面倒見がいいんですよ。
平均年齢は30歳ちょっと過ぎくらいです



曲げ加工エリア。徹底した整理・整頓が実行されている工場内は、採光も行き届き非常に明るい。

かね。若い人が多いので仲間どうして教
えあっています。精密板金工業会のセミ
ナーなどにも、どんどん行かせて、情報
交換もやらせています。だから社員間の
断層がない、技術的にみてね。それと人
材確保は非常にうまくいっています。若
い社員が友達を連れてきてくれるんです
よ。

—— 最後に、経営理念についてお聞か
せいただきたいのですが。

山野内 人に先んずる。社員を信用する。

質実剛健。それに品質第一。常に胸襟を
開いていきたいですね。茨城県というレベ
ルで考えれば、昭和62年3月に精密板金
工業会が発足しまして、現在43社が会員
になっていただけてますが、経営者・社
員セミナー、工場見学会など工業会の活
動も積極的にやっています。私もそうで
すが、社員も工業会の勉強会に一番良く
出ているんじゃないんですか。お互いに
向上していけば、結果として技術も上が
るし、製品の単価も安くなる。競争心や
向上心も出てきてお互いに良くなると思
います。



日本ゲージの本社・工場。右手の新しい建物の一階には、インテリジェント自動倉庫・MARS、マニピュレータ+NCT 4台レーザー加工機1台で構成される加工ラインを設置している。二階は事務部門や加工ソフトウェアを担当する関連会社が入っている